

## < 採取用綿棒及び抽出方法変更のお知らせ >

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、委託先検査機関より、子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ用容器の採取用綿棒を変更する旨の通知を受けました。それに伴い抽出方法も変更となりますのでご案内いたします。

誠に勝手ではございますが、弊社事情ご賢察のうえ、ご了承の程お願い申し上げます。

敬具

記

《変更日》 次回、発注分より順次

《対象容器》 子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ

| 変更点  | 新  | 現  |
|--|--|--|
| 容器形態<br>※赤枠内が変更<br><br>容器番号40<br>顆粒球エラスターゼ<br><br>(総合検査案内 57・161頁) |  <p>スワブ容器にラベルあり</p> |  <p>スワブ容器にラベルなし</p> |
| 容器保管方法   | 冷蔵   | 室温   |

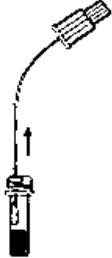
●留意事項

委託先検査機関より、「抽出方法の手技を誤ると測定値に影響がある。」との注意喚起がございます。新たな採取容器の抽出方法詳細は裏面に記載しております。

**検体採取の都度、抽出方法を確認のうえ、正しい抽出方法によりお取り扱い頂きますようお願い申し上げます。**

<裏面へ続く>

●抽出方法の変更点

| 変更点  | 新   | 現  |
|------|---|--|
| 抽出方法 |  <p>検体抽出液が浸み込んだ綿棒を、抽出容器壁面に軽く押しつけて、抽出液が滴らない程度にした後、取り除きます。</p> |  <p>綿棒に浸み込んだ検体抽出液を抽出容器ごと指で押しつぶす等して絞り出した後、綿棒を取り除きます。</p> |

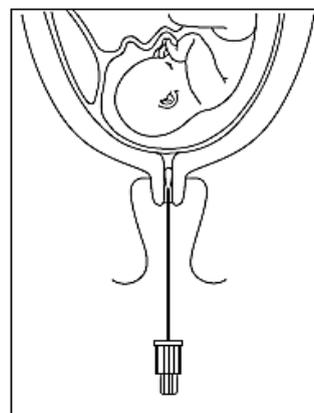
●変更後の検体採取方法と抽出方法

1 検体採取方法

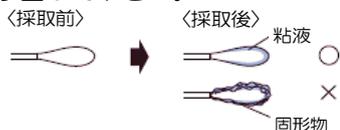
- ①子宮腔部の粘液を綿球で丁寧に拭い取ります。
- ②綿棒を子宮頸管内腔に挿入します。
- ③綿棒をゆっくりと2回転させ、頸管粘液(滲出液)を採取します。

●注意事項

- 1) 子宮頸管部より採取して下さい。
- 2) 検体採取は腔部洗浄前に行って下さい。
- 3) 綿棒が外子宮口周辺の分泌物や粘液に接触しないようにして下さい。  
綿棒の先が初めて接触する部分が頸管内腔である様に挿入して下さい。
- 4) 綿棒1回転あたり約5秒をかけ、自然に粘液(滲出液)を浸み込ませるようにして下さい。少量の固形物が付着した場合には、ピンセット等で取り除いて下さい。又、大量の固形物が付着した場合には、検体採取をやり直して下さい。



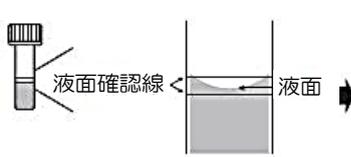
正しい採取部位



- 5) 採取した検体は15分以内に抽出操作を行って下さい。

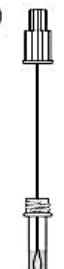
2 抽出方法

①



抽出液の液面が、抽出容器の液量確認線の間にあることを確認します。なお、抽出液がキャップ中栓に付着している場合がありますので、振り落とした後に液面の確認を行って下さい。

②



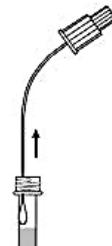
頸管粘液(滲出液)を採取した綿棒を浸けて、2~3分間放置します。

③



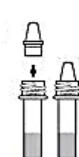
綿棒を20~30回細かく上下させて検体を抽出します。

変更点 ④



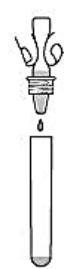
検体抽出液が浸み込んだ綿棒を、抽出容器壁面に軽く押しつけて、抽出液が滴らない程度にした後、取り除きます。

⑤



フィルターをセットします。

⑥



検体抽出液を検体保存容器へ濾過します。この時の加圧は1回のみとし、5~7滴(約300μL)を分取します。必要量を得られない場合は検体採取からやり直して下さい。

⑦



検体保存容器にキャップをし、容器ラベルを貼って保存します。冷蔵(8℃)で3日以内、冷凍(-15℃以下)で3ヶ月以内に測定して下さい。